

アイスブレイキングとは、「ice=よそよそしさや、形式ばった態度」を「break=破る、やわらげる」ことから生まれた言葉で、「話の口火をきる」とか、「和やかな空気にする」といった意味がある。

アイスブレイキングは、通常、参加体験型の学習や研修のはじめに、参加者の緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出すために行われるが、学級開きなどの出会いの場や、保護者会など、既にある程度知り合いになっている集団の出会い直しの場で用いることもできる。

ここでは、アイスブレイキングをより広義に「人と人を出会わせ、集団の心をほぐす活動」と捉え、通常のアイスブレイキングよりも所要時間の長いものも紹介している。

いずれも、人権教育のねらいをふまえたアイスブレイキングとなっているので、ワーク実施前の導入として、また、学級活動時などに単独で、気軽に実施してほしい。

① 共通点はなに？

ねらい

共通点を探し出すことで、友だちとの距離を縮める。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約5分

用意するもの

○「共通点はなに？」ワークシート

進め方

- ① 2人組になる。
- ② 2人の共通点を探す。
その際、「同じノートを持っている」「ハンカチの色が同じ」のように、見える共通点だけではなく、見えない共通点も探す。
- ③ 3分間で探し、見つけたものをワークシートに書き出す。
- ④ グループで行うなど人数を増やす。

解説

共通点が見つければ見つかるほど親近感がわき、心の距離が近づく。なかなか見つからない場合でも、探すためのコミュニケーションを取ることで、それまでよりも関係が近くなるのではないか。

新学期が始まってすぐなど、出会いの季節に行うのが有効だが、既に知り合っているはずの友だちの新たな一面を知ることがねらって他の時期に行うこともできる。

きょうつうてん
「共通点はなに？」

() 年 () 組 () 番 名前 _____

- 1 共通点を探して書き出しましょう。
 「同じノートを持っている」「ハンカチの色が同じ」のように、見える共通点だけでなく、見えない共通点についても探してみましょう。
 時間は3分間です。

- 2 共通点を探して気づいたことを書きましょう。

② OOと言えば？

ねらい

- ・緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出す。
- ・視点を提供し、本題への導入とする。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約5分

用意するもの

○「OOと言えば？」ワークシート 各グループ1

進め方

- ①3～4人組で行う。
- ②教員が出したテーマを聞いて、思いついたものを、どんどん発言する。
(テーマの例：「春と言えば」「海と言えば」「スポーツと言えば」他、何でもよい)
- ③進行役は一つひとつを受け止め、復唱しながらワークシートなどに書く。
- ④特定の人ばかりが発言しているようであれば、他の人の発言を促す。
※②から④をくり返す。
- ⑤参加者の気持ちが高まってきたところを見計らい、学習の本題に関連するテーマを出すこともできる。

解説

冒頭の時間を工夫することで、参加者の興味・関心を高めたり、活発な意見交換につなげたりすることができる。このアイスブレイキングでは、テーマについてテンポよく回答することで、全員が声を発する機会をつくとともに、発言しやすい雰囲気もつくる。また、テーマを徐々に本題に近づけることで、参加者の思考を自然に深めることができる。

出てきた答えを復唱し、ワークシートや黒板などに書き留めるだけで、発言者は自分の意見を受け入れられたことに安心し、次の発言への意欲へとつながる。

「〇〇^いと言え^ば？」

()年()組()番 名前 _____

「〇〇」と聞いて、^き思い^{おも}つ^だいた^あものを出^だし合^あい^あい^あま^あし^あよ^あう。

【1回目^{かいめ}】

テーマ	
思い ^{おも} つ ^だ いた ^あ もの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

【2回目^{かいめ}】

テーマ	
思い ^{おも} つ ^だ いた ^あ もの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

【3回目^{かいめ}】

テーマ	
思い ^{おも} つ ^だ いた ^あ もの	<ul style="list-style-type: none"> • • • •

③ 言葉さがし（たべもの編）

ねらい

友だちと力を合わせて取り組むことで、協力することの楽しさやすばらしさを体験する。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約 10 分

用意するもの

○「言葉さがし（たべもの編）」ワークシート 各グループ 1 枚

進め方

- ① 3～4 人組になり、取り組む順番を決める。
- ② ワークシートから、1 人ずつ順番でたべものを探し○をつける。
- ③ 自分の番以外では○をつけることができないが、ヒントを出すことはできるので、一緒に探すように促す。

※ 「全員で○個以上探す」というように、目標を決めてから取り組むことにしてもよい。
ひらがな表記となっているが、濁点、長音等はどこにつけてもよいものとする。
同じ文字を何度使ってもよい。

解説

1 枚の紙をみんなで囲むことで、まず物理的な距離が縮む。そして、教え合ったり助け合ったりすることで、心理的な距離も縮まる。そうして一緒に行くことで、助け合うことや友だちと取り組むことのすばらしさや大切さに気づくことができる。

ことば 「言葉さがし（たべものの編）」

ワークシート

() 年 () 組 () 番 名前 _____

つぎ ひょう もじ つか なまえ み くだ だくてん ちょうおんなど
次の表の24文字を使って、たべものの名前を見つけて下さい。濁点、長音等はどこに
つけてもよいものとしてかんが おな もじ なんどつか だいじょうぶ
考えてください。同じ文字を何度使っても、大丈夫です。

う	り	む	す
さ	し	く	そ
な	お	と	ね
ん	た	い	こ
き	ゆ	ま	み
ら	か	に	は
だくてん 濁点	はんだくてん 半濁点	もししょう 文字小	ちょうおん 長音

した
下のたべものを見つけたら○をつけます。

たまご	だんご	なす	りんご
すいか	そば	たまねぎ	にく
むしばん	とまと	おむらいす	うどん
かに	さとう	おにぎり	ばなな
さしみ	さかな	すし	ごま
みそ	みかん	ねぎ	しゅーくりーむ

④ うれし、はずかし、魔法のことば

ねらい

言われてうれしい言葉を伝え合う体験をとおして、お互いを認め合おうとする雰囲気づくりをする。

対象

児童・生徒、教職員、保護者

所要時間

約 15 分

用意するもの

○「うれし、はずかし、魔法のことば」ワークシート

進め方

①「自分が言われてうれしい言葉をワークシートに書く。（例を挙げる。）

(例) ○○が上手だね
だいじょうぶ
すごい
いっしょに遊ぼう

②ペアでワークシートを交換し、書かれている言葉を伝え合う。

その際、気持ちを込めて伝え、言われたら「ありがとう！」と笑顔で受ける。

③最後に、ワークシートに書かれていない「相手のいいところ」を伝える。

④仲間に言われた「自分のよいところ」をワークシートに書く。

⑤さらにペアを替えて行う。

解説

「自分が言われてうれしい言葉」は、「自分ががんばっていること」かもしれない。年齢が上がるにつれて恥ずかしくて言えなくなってしまうがちだが、自分のよさに意識を向ける機会を設けることは、自己肯定感を育む。

また、仲間が書いた言葉を知ることは相互理解となり、相手のよいところに着目し、認め合っていこうとする人権尊重の意識を高めることにつながる。

